

※保護者の方へ：必ずお読みください。

ヒブワクチン・小児用肺炎球菌ワクチンの予防接種を受けるにあたって



1. ヒブ（インフルエンザ菌b型）と肺炎球菌とは？

ヒブ（インフルエンザ菌b型）について

ヒブとは、インフルエンザ菌b型の略称です。インフルエンザ菌はインフルエンザとは直接関係ありません。ヒブは、保菌者（インフルエンザ菌b型をもっている人）の咳やくしゃみとともに、鼻やのどから侵入し、そこで繁殖します。通常は全身に影響を与えることはありませんが、乳幼児がかかると髄膜炎や肺炎などの重篤な感染症を引き起こすことがあります。

特に、ヒブは乳幼児の髄膜炎の原因菌としてもっとも多く、患者数は全国で500～600人と推定されます。1才未満でかかる子どもが50%と多く5才以上でかかる子はほとんどいません。かかると5%の子どもが亡くなり、20%前後の子どもに後遺症を残します。

肺炎球菌について

肺炎球菌は、多くの子どもの鼻やのどにいる、身近な菌です。ふだんはおとなしくしていますが、子どもの体力や抵抗力が落ちた時などに、いつもは菌がいないところに入り込んで、髄膜炎や敗血症、肺炎中耳炎などの感染症を引き起こし、重い症状や、後遺症を残すことがあります。

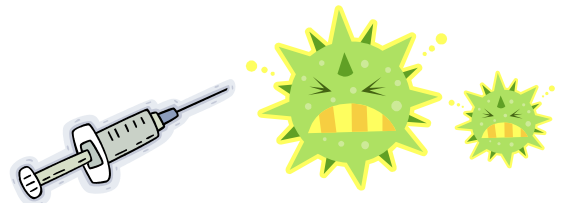
2. ヒブワクチン・小児用肺炎球菌ワクチンとは？

ヒブワクチン

インフルエンザ菌b型による、髄膜炎、肺炎、敗血症など重篤な感染症を予防します。

小児用肺炎球菌ワクチン

肺炎球菌による、髄膜炎、肺炎、敗血症、中耳炎など重篤な感染症を予防します。



3. 主な副反応について

ヒブワクチン

接種部位の発赤、腫れ、硬結、痛みなどの局所症状や発熱、不機嫌、食欲不振などの全身症状が接種後3日以内に起こることがありますが、数日中に消失します。

まれに、重い副反応として、接種後数日から3週頃に紫斑、鼻出血などの症状で血小板減少性紫斑病があらわれることがあります。また、けいれん、アナフィラキシー様症状（ショック状態、じんましん、呼吸困難等）があらわれることがあります。

小児用肺炎球菌ワクチン

接種部位の発赤、腫れ、硬結、痛み、発熱などが起こることがありますが、数日中に消失します。まれに、重い副反応として、けいれん、アナフィラキシー様症状（ショック状態、じんましん、呼吸困難等）があらわれることがあります。

4. 予防接種による健康被害救済制度について

○今回実施する子宮頸がんワクチンの予防接種は国が定めた「子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進事業」として実施する、予防接種法には基づかない接種（任意接種）として取り扱われます。この予防接種で健康被害を受けた場合は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づく救済を受けることになります。健康被害の内容、程度に応じて、国の薬事・食品衛生審議会での審議を経た後、医療費、医療手当、障害年金、遺族一時金、葬祭料などが支給されます。予防接種法による接種での健康被害と比べて救済額がおおむね二分の一（医療費・医療手当・葬祭料については同程度）となっています。



5. 接種にあたっての注意事項

予防接種は体調の良い日に行うことが原則です。お子様の健康状態が良好でない場合は医師と十分に相談の上、接種するか否か決めてください。

また、以下の状態の場合には、予防接種を受けることができません。

- ① 明らかに発熱（通常37.5度以上をいいます）がある場合
- ② 重篤な急性疾患にかかっている場合
- ③ 受けるべき予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある場合
- ④ 上記のほか、予防接種を行うことが不適切な状態と医師が判断する場合。

次の方は接種前に、医師とよくご相談ください。

- ① 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患がある方
- ② 過去に予防接種で接種後2日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状のみられた方
- ③ 過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある方
- ④ 過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある方もしくは近親者に先天性免疫不全症の者がいる方
- ⑤ このワクチンの成分またはジフテリアトキソイドに対してアレルギーを起こすおそれのある方

<問合せ先> 滝川市健康づくり課（滝川市保健センター） ☎ 24-5256 保健師まで